

校庭を活用した小学校低学年向け自然環境教育プログラムの考案

0012503 今居優貴
指導教員 市川智史教授

1. はじめに

環境教育においては「人間と自然のかかわり」の学習が重視されている。特に小学校低学年の時期には自然とかかわる体験を通して、豊かな感性を育むことが重要である。学校内の自然環境としての校庭は、児童に最も身近で親しみやすく、授業でも利用しやすい。しかし、校庭を活用した、小学校低学年に適切なプログラムは見られない。そこで本研究では、児童が身近な自然環境に関心を持つことのできる自然環境教育プログラムを考案する。

2. 作成したプログラム

プログラムのねらいは、校庭の自然の豊かさに気づく、校庭の生き物を通して自然環境への関心を持つ、の2点とし、2時間構成で作成した。主な活動内容は「自然探し」、「仲間分け」、「くじ当てゲーム」の3つである。班ごとにくじ引きで決まった条件の自然のものを探す。条件は、色、大きさ、形、手触りの4つで、見るだけでなく、触って探すことも重視した。探してきたものは班ごとに交換し、他班のものを植物の種類ごとに仲間分けを行い、多くの自然に触れあうことができるようにした。くじ当てゲームは、他班が見つけてきたものをよく観察し、どのようなくじだったかを当てるものである。

3. 模擬実践

プログラムの評価と改善点の把握のため、2015年10月28日(2限)に、院生、学生、環境学習支援士受講生の計8人を対象に模擬実践を行った。事後調査から、くじの条件に問題はなく、活動の指示や説明も適切で、屋外活動を含め全体に楽しいプログラムであるとの評価を得た。一方、低学年には難しいのではないかと、「めあて」を変えるべき、班同士で仲間分けを共有すべきといった指摘があった。

4. プログラムの改善

模擬実践の結果をもとに、以下の3点を中心にプログラムの改善を行った。

改善1：植物1つ1つの特徴に目が向けられるような「めあて」と支援を行う。

改善2：各班で仲間をおこなった後、クラス全体で共有する時間をとる。

改善3：自然探しの中で見つけた昆虫なども発表で活用する。

表1 改善後のプログラム

第1時	めあて「よく見て さわって あつめよう」 <ul style="list-style-type: none">・班ごとにくじ1とくじ2を引き、決められた条件のものを校庭で探し、袋に入れて持ち帰る。・ワークシートに書かれた課題にも取り組む。
第2時	<ul style="list-style-type: none">・仲間分け：集めたものを班同士で交換し、仲間分けを行い、いくつかの仲間に分けられたか数える。・くじ当てゲーム：仲間分けを参考に、他の班がどことなくじを引いたのか予想する。・各班の仲間分けをクラスで共有する。・各班でおこなった仲間分けを教室の中央に集め、校庭にあった自然を觀賞する。